

令和 8 年度 京都大学一般選抜
解 答 又 は 解 答 例 等 及 び 出 題 意 図

国 語 (文系)

- ・一義的な解答例等を示すことが適切でない問題については、出題意図のみを示しており、解答例等を示したとしてもあくまでも 1 つの解答例であり、これに限られません。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・「解答又は解答例等及び出題意図」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

出題意図 国語（文系）

大問一

出題意図（問題一全体）

本文は、恋愛という身近なテーマを巡り、筆者独自の視点から自在に持論を展開したものである。その中でも設問部分は、恋愛を表現する言葉やその歴史、さらに恋愛を描くことの意味を通して、筆者の言語観および表現論が展開する。行論に従って、その主張を的確に読み取る力と、それを簡潔かつ明確に表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：「愛という語で非常に苦労した」と筆者が概括することがらを、第一段落の内容を手掛かりに適切に要約することを求める。

問二：「言葉の国」や「御利益」といった独自の表現から示される筆者の考えを的確に理解し、それを明確に記述することを求める。

問三：外来文化に合わせて増加した言葉、それに伴い現出した言語使用の実態について筆者が抱く「不安」の在処を理解し、明確に記述することを求める。

問四：これに類似した表現が数箇所に繰り返されることを手掛かりに、筆者が、言葉を用いて表現することをどのように捉えているかを読み取り、それを明確に記述することを求める。

問五：本文全体の主張を的確に理解しているかを問う問題。問うているのは、「恋愛について」考え、それを小説に書くことの意味であること、その両方の要素を本文全体の記述に明確に記述することを求める。

大問二

出題意図（問題二全体）

問題文は、俳句における写生趣味と空想趣味の関係について考察した文章である。一見対立しているような両者だが、実際は緊密な関係にあるということを、筆者の思考を丁寧にたどることで理解し、本文に即して的確に表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：傍線部のように筆者が感じた理由について、空想趣味の長所を理解した上で、「夕顔」に即して的確に説明することを求める。

問二：傍線部に含まれる指示語の内容を理解し、明確に言語化して説明することを求める。

問三：傍線部中の比喻表現の指すところを理解し、「春雨」を例にして筆者の言わんとするところを的確に説明することを求める。

問四：「玉石ともに焚く」の意味を理解した上で、「玉」「石」の指すところを明らかにし、傍線部全体を的確に説明することを求める。

問五：傍線部の比喻表現の指すところを理解し、写生趣味と空想趣味の関係を的確に説明することを求める。

大問三

出題意図（問題三全体）

擬古文の文体で江戸時代に書かれた物語の一節を題材として、古語および古典文法の基本的な知識に基づいて、本文を正確に読解した上で、現代語訳や登場人物の心情説明を的確に行う力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：「くちをし」の語義を理解した上で、（A）（B）それぞれの前後の文章から、誰が、どのような事柄に対して「くちをし」と思ったのかを読み取り、適切にまとめることを求める。

問二：傍線部が何を説明するための文であるかを把握した上で、文意が明らかになるようことばを補いつつ、わかりやすい現代語に置き換えることを求める。

問三：基本的な古語や助詞・助動詞の意味・用法を正確に理解した上で、適切に現代語訳することを求める。

問四：和歌に用いられた掛詞や寓意を理解した上で、それによって詠み手がどのような気持ちを伝えようとしているのか、的確に説明することを求める。